

89 冊。1969年6月自宅の庭先で2 冊を採集して以来目撃すらししておらず、実に13年振りの採品である。上述したダイミョウセセリの再現といい、久しく破壊が進んでいた周辺の自然環境にも、漸く回復の兆しが現われてきた証かも知れない。

4. オオチャバネセセリ *Polytremis pellucida* Murray の初記録

6月27日昼ごろ、クズ、ススキ、カナムグリなどにおおわれた自宅裏側溝沿いの土手で、完全な1 冊を採集した。本種は本州西部、四国、九州の暖地では山地、低山地に多く、かつ必ずしも普遍的に生息していない。

これで清荒神で確認されたチョウは42属54種、セセリチョウ科は6種となる。

なお、上述した4種とも採集当日は晴天であった。

カバフキシタバを西宮市角石町で採集

芦田 久・佐藤 学

カバフキシタバ *Catocara mirifica* Butler は兵庫県や京都府などの西日本の低山地に産するが、個体数は少ないようである。筆者らは六甲山系東端の西宮市角石町で本種を記録することができたので、報告しておきたい。

1 ex. 兵庫県西宮市角石町 27・Ⅶ・1982 佐藤 学 採集

蛇足ながら、同地では他のカトカラは、キシタバが5～6頭とコガタキシタバが1頭採れているだけである。

宝塚市と西宮市の隣接地におけるヤンマ類の目撃例二つ

新 家 勝

(1) アオヤンマ

アオヤンマは、鮮やかな緑色で、胸部前面および腹部に黒条のある中型のヤンマである。かつて、阪神間ではタケヤンマと呼ばれ、ギンヤンマの次に多いヤンマであったが、農業用溜池や湿地帯の

減少に伴って姿を消して行った。アオヤンマは、アシ、マコモ、ガマ、ショウブなどの間や立木の周囲または民家の軒先などをゆっくりと飛び回り、他の昆虫などを捕食する習性があり、特にクモ類をよく捕食する。余り大型でないオニグモなどが、その巢上にいるのを見つけると、巢の前面の空間で静止しながらチャンスをつかみ、飛び付いて捕食する。

このようなアオヤンマを久しぶりに西宮市内で目撃したので報告する。1982. 5. 24の12時、西宮市田近野町の工場敷地内にある松林中でムクゲ、ネズミモチなどの周辺を徘徊する新鮮な1個体を目撃した。この辺りには、後述の通りギンヤンマがよく見られ、マルタンヤンマの産卵が目撃された所があり、このあたりで偶然発生したのかあるいは僅かばかり発生し続けているのかもわからない。

(2) マルタンヤンマ

マルタンヤンマは、体翅共、褐色の大型のヤンマである。特に、成熟した雌では、褐色は著しく、かつ、胸部側面の黄紋は鮮かで、水面の少し上で細かく羽ばたきながら静止しているときなど普通種でない印象を与える。筆者がトンボ採りに夢中だった1940年頃、当時の武庫郡大庄村（現在、尼崎市）の農業用溜池では、昼間の産卵と夕方の摂食飛翔がよく見られた。そして、初めてその雌を捕獲したときは、コオニヤンマのドロメン（当時、その地域ではギンヤンマなどの老熟した雌で翅色が著しく褐色になったものをドロメンと称した。）を捕えたと思って驚喜した。図鑑で調べたところ、マルタンヤンマであり、大阪付近では稀ではないが決して普通種でないとのことであった。

前置きが長くなったが、このようなマルタンヤンマを久しぶりに宝塚市内で目撃したので、その状況を報告する。少し古い記録ではあるが、1980. 8. 1の12時頃宝塚市仁川北2丁目の小仁川で産卵中の雌1頭を目撃した。小仁川は、阪急電鉄仁川駅西北にある弁天池から流出する小河川であり、途中で民家からの下水の流入があるが、仁川と合流点附近まで、鮎などの小魚も多く、ギンヤンマなどがよく見られる。産卵を目撃したのは、仁川との合流点の少し上流で、川幅が少く広くなり、流れが緩かになっている所であった。ただし、この場所もかなり汚染されており、ここで生育しているかどうかは分らない。また、その後も休日には、昼間、夕暮れ共、幾度か訪れたが、採集も目撃もできなかった。

摩耶山におけるヒメコブヤハズカミキリの採集例

芦 田 久

「兵庫県甲虫相資料・96」を拜見したところ、ヒメコブヤハズカミキリ *Parechthistatus*